

事故を防ぐために

① スライサーも刃物に変わりはありません

スライサーは簡単・手軽に野菜をスライスできますが、スライス中に手指が刃に触れれば大けがを負うおそれがあります。スライサーも包丁などと同じ刃物です。危険性を十分に認識し、油断せずに使いましょう。

② 安全ホルダーはけがの防止に有効です

野菜を保持する安全ホルダーはけがの防止に有効です。スライサーを新たに購入する際は、安全ホルダーが付いた商品を選ぶと良いでしょう。

安全ホルダーにはさまざまな形状のものがありますが、野菜の種類や大きさによって使いやすさに差がありますので、適切なものを選択し、取扱説明書にしたがって正しく使用しましょう。また、安全ホルダーが付いていない場合は、無理してスライスをし続けず、野菜が小さくなったら包丁を使うなどしましょう。

③ 使用中はスライサーから目を離さないようにしましょう

スライスしていくと、野菜はどんどん小さくなります。刃の手前のプレートのたわみが大きい商品は、思っている以上に野菜が早く小さくなり、手指が刃に近づきやすくなるので危険です。スライス中はスライサーから目を離さないようにしましょう。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、

被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。

特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。

商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。

無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042(758)3165 ●2013年8月発行

デザイン=独立行政法人国民生活センター商品テスト部

くらしの危険

Number

314

スライサーによるけが

野菜をスライスする際に便利なスライサーですが、手指をけがしたという事故は後を絶ちません。

スライサーでのけがは、指先などを削ぎ落とすことになるため、包丁によるけがよりも重症になりやすく、治りにくいとされています。

野菜を保持する安全ホルダーを使うなど、使用の際は十分な注意が必要です。

治療に長期間を要することも

PIO-NETや医療機関ネットワーク*に寄せられたスライサーによる事故情報の中には、治療に1カ月以上を要した事例もありました。どの年代でも事故は発生していますが、中には児童が受傷した事例もみられます。



安全ホルダーを使わずに受傷したケースも

けがを防ぐためには安全ホルダー（スライスするときに野菜を保持する補助具。『指ガード』『野菜ホルダー』と呼ばれることもあります。）の使用が有効ですが、寄せられた事故情報の中には、商品に安全ホルダーが付属していなかったという事例や、使い勝手が悪く、安全ホルダーを使用しなかったという事例がみられました。

*生命または身体に被害を生じる消費生活上の事故情報を参照医療機関から収集し、国民への注意喚起などに活用することを目的として実施している事業。消費者庁と国民生活センターの共同事業であり、2010年12月より情報収集を開始した。

こんな事故が起きています

ケース 1 ニンジンをスライス中に親指と中指の腹が削げ、全治1カ月と診断された。野菜が小さくなったら使用する安全ホルダーが付属していたが、まだ半分程度の大きさだったので使用しなかった。
(30歳代、女性)

ケース 2 買ったばかりのスライサーで指を切った。指ストッパーが付いていたが使用しなかった。
(50歳代、女性)

ケース 3 スライサーで野菜を切っていたら薬指の腹部分を薄く切った。指を保護する安全ガードや野菜を受けるケースなどがあれば一緒に購入しようと思っていたが、商品は見当たらなかった。
(40歳代、女性)

ケース 4 安全ホルダーからジャガイモが外れて手のひらを切った。安全ホルダーの握りはイメージしていたより大きく、自分の小さめの手ではまた野菜が外れてけがにつながると思う。
(30歳代、女性)

ケース 5 スライスカッターを使ってきゅうりの輪切りを作っていた。スライサーの安全装置は縦に長いものには使用できないため、安全装置は使用せずに切っていた。きゅうりが2cm程度になったとき、きゅうりを持っていた右手第2指も切ってしまった。
(50歳代、男性)

ケース 6 母親の手伝いをしていて、スライサーできゅうりを輪切りする際に、いっしょに指を切ってしまった。
(10歳未満、女性)



安全ホルダーの使用性に関するモニターテストを行いました

ホームセンターやスーパーマーケット等で販売されている、さまざまなタイプの安全ホルダーが付属したスライサーについて、女性モニターに実際に野菜をスライスしてもらい、使いやすさを調べました。

●野菜が小さくなると、安定して野菜を保持できなくなることがあります
多くの商品は、野菜が小さくなったら安全ホルダーを使うようにとの注意表示があります。しかし、野菜の種類と大きさによって安全ホルダーの使いやすさには差があり、スライサーの形状によっては、野菜が小さくなると安定して保持できなくなることがあります。

●安全ホルダーを正しく使わないとけがのおそれがあります
「安全ホルダーが持ちづらい」「力を入りにくい」「野菜を保持しにくい」などの理由で、安全ホルダーの外側を持ち、指が刃に触れそうな不適切な使い方をするケースがみられました。

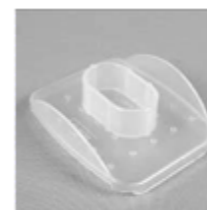
安全ホルダーの不適切な使い方(例)



安全ホルダーの種類

安全ホルダーには、以下のような種類があり、それぞれに特徴があります。野菜の種類や大きさに合ったものを選択することが大切です。

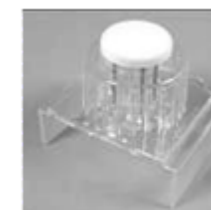
- 突起式:板状の底面に多数の突起がある、一般的な安全ホルダー
- 穴あき式:中央部分はずした穴の中に小さな野菜を保持できる安全ホルダー
- 突き刺し式:内部の串で野菜を保持できる安全ホルダー
- 挟み込み式:一部がスライドして、野菜を挟み込むように保持できる安全ホルダー



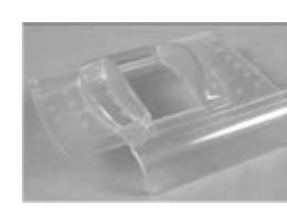
突起式(例)



穴あき式(例)



突き刺し式(例)



挟み込み式(例)

●このテストの詳細は(独)国民生活センターホームページ「商品テスト結果」スライサーを安全に使うにはー安全ホルダーの使用性を中心にーで見ることができます。